

「変わるということ」

代表取締役社長 三村景一

おかげさまで皆さんの努力をもって、昨年度の業績はラ・テをはじめとても好調で、より上位を狙う勢いをつけて新しい期を迎えることができた。心より感謝したい。

ではこの機に、なぜホールディングスに向かうのか？

開局して65年。我々は人々の気持ちを豊かにするコンテンツを創造発信し、信頼される報道機関として地域に寄り添い時代を歩んできた。まずは、それを守り永続していくために。

そして、これから押し寄せる激しき時代の波に、メディアの柱を支え、広げ、より強きグループの経営、財務基盤をもって備えていくために。ホールディングス化に移行した各社も、ほぼそこを目的としている。

65年の間、MBSは先人のバトンを受け継ぎながらここまで成長、発展してきた。放送業界そのものも大波小波あれど、今日まで無事にそれぞれの時代を乗り越えてきた。

しかし今、我々を取り巻くメディア環境の変化のうねりは、

激しさを増し、ここにきて高齢少子化、働き方、企業の再編など世の中の人々のライフスタイルや価値観、時代そのものが大きく変わろうとしていることを実感する日々である。

今や現状に甘んじこれまでの前例を踏襲し、何も動かず変わろうとしない、変わっていかない保身的思考は、次の時代に大きなリスクを生む。

グループ全社ひとりひとりが、新たなることに挑戦する熱き勇気・覚悟を持ち、保身思考からの脱皮。明日を変えていくこと、改革していくことが日常の仕事になる。自分自身も含めそこへの意識変革が、このホールディングス体制移行の根幹ではないかと思っている。

ありとあらゆることにクリエイティブであってほしい、

失敗を恐れないでほしい。今の人の気持ちのありどころを常につかんでほしい。そして仕事は夢につながるものであってほしい。

結びに地域からの信頼、信用こそが、開局以来の財産、経営資源そのものであることを今一度再確認し、65年培われてきた創造力・発信力に自信を持って、未知なる新しいステージに向かいたい。

MBSメディアホールディングスは、その全ての土台となる。